

(様式第9号)

高槻市立阿武山中学校区運営協議会 会議録

令和8年2月27日作成

会議の名称	令和7年度 高槻市立 阿武山 中学校区 学校運営協議会		
会議の開催日時	令和8年2月16日(月) 18:00～ 19:30		
会議の開催場所	高槻市立阿武山小学校	公開の可否	可
担当課	教育指導課 教育総務課	傍聴者数	1人
非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む。)の場合)			
出席委員(委員)	長井勘治 松本 大 鈴川啓輔 田淵慎太郎 丸野裕志 三木正二郎		
出席委員(学校)	(阿武山中学校) 丹家 敬 山田伸一 清水琢也 (土室小学校) 井澤美穂 松江仁志 藤居正吾 野村典史 (阿武山小学校) 浅香一世 羽倉陽三 井上謙吾 伴孝太 大西智子 中井悠介 渡邊千尋 大川靖弘 高橋由里子		
会議の議題	・ 議案1 今年度の取組報告 ・ 議案2 学校評価 ・ その他		
配付資料	・ 高槻市立阿武山中学校区 第3回学校運営協議会 次第 ・ 配席図(資料1) ・ 阿武山中学校区、今年度の取組報告(資料2) ・ 学校評価(学校教育自己診断)(資料3) ・ R7 グランドデザイン(参考資料)		
審議等の内容	・ 取組の報告について ・ 評価指標について		

(別紙)

高槻市立阿武山中学校区運営協議会 会議録

1. 開会	<ul style="list-style-type: none">委員の出席確認…田中委員（欠席） 中平委員（欠席）本会議の成立確認写真撮影の了承校長 開会のあいさつ資料確認会長 あいさつ
2. 議題	<p>会議録の作成…鈴木委員 傍聴希望者の確認…1名 阿武山中学校校区の報告 議題Ⅰ：取り組みについての報告（各部会の今年度の成果報告） 議題Ⅱ：評価指標についての報告（学校教育自己診断アンケート結果報告） その他</p>
3. 質疑応答	<p>1. 取り組みについての報告について</p> <p>（委員）生徒指導部、不登校支援についての報告がございました。不登校の子どもが学校に行きにくい理由として、家庭環境や友だち関係などがあると思いますが、減少傾向なのか、増加傾向なのか教えていただけないでしょうか。</p> <p>（学校）本校では、今年度増えたケースもありますし、改善に向かっている児童もいます。</p> <p>（委員）ケースバイケースということですね。</p> <p>（学校）本校では、全体の人数は減っていますが、新規の不登校は増えています。</p> <p>（学校）本校では、新規は増えていませんが、校内教育支援センターを通して通えるようになった生徒は増えています。</p> <p>（委員）不登校はなくなることはないと思いますが、それぞれの学校で対策をされているとのこと。具体的な取り組みがあれば教えてください。</p> <p>（学校）不登校にはさまざまな背景があります。教室復帰をめざす子もいれば、教室に入ること自体を目標にしていない子もいます。不登校等支援員が、家庭訪問を行ったり、ゆっくり話を聞いたりしています。子どもの心や家庭にどう寄り添うかを考えています。校内教育支援センターも活用しています。教室から離れて安心して過ごすことを目的とした部屋で、各校で相談しながら環境づくりを進めています。</p>

す。

(学校) 本校では、保護者同伴での利用や、教員と一緒にやりたいこと（めだかや植物の飼育など）を探し、その子に安心・役割・生きがいを感じられる場所にしたいと考えています。

(委員) 以前は不登校を問題行動として捉えたり、保健室登校を保健室の先生に任せきりにしたりする風潮もありましたが、現在は学校全体で取り組んでいる印象があります。集団で学習できる子もいれば難しい子もいるので、不登校＝問題行動ではなく、個性を伸ばす取り組みがあってよいと思います。

(委員) 不登校の子どもの自尊感情は高いのでしょうか。それとも相対的に低いのでしょうか。不登校であることを悪いことだと思っているのでしょうか。

(委員) 「トットちゃん」の中で、黒柳徹子さんは不登校を悪いこととは捉えていませんでした。「学校に来られないことをあなたの欠点としない」と述べ、自分を大切にするために集団に無理に合わせなくてよいと言っていました。

(委員) 自己肯定感や自己有用感を高めることも大切です。学校では校内教育支援センターなどを設置して対応してくださっているので、今後も続けてほしいです。

(委員) (不登校対策の) 予算はどのように賄っているのでしょうか。他市では予算がないところもあると聞きますが、高槻ではどうなっていますか。

(委員) 不登校等支援員は外部の方ですか。

(学校) 設備関係の予算は市から出ています。不登校等支援員も市の予算です。SC は府の予算です。不登校支援員は外部の方で、現在は土室小と阿武山小を兼務しています。

(委員) 中学校にも 1 名来ています。

(委員) SC や SSW も来校していますか。

(学校) 支援員の来校日に合わせて、SC、SSW も来校しています。

(委員) SSW は保護者と外部機関をつないでくれます。各学校で活用しています。

(委員) 平安女学院で子ども教室をしています。2、3 人来ています。話を聞いていると、学校に行きたくない理由がはっきりしない子もいます。何とかしてあげたいと思っています。子ども教室には先生が多く、とてもよい環境です。各校にチラシが送られているので、興味のある方はよろしく願います。

(委員) 高槻市の生成 AI の活用状況はいかがでしょう。

(学校) 小学校ではまだ進んでいません。子どもたちが使えるものを精査している段階です。教職員の中には活用している者もいます。

(委員) 生成 AI は今後広がっていくと思いますが、子どもたちの創造力や思考力の発達に影響はないでしょうか。学校では精選して活用する必要があります。

(委員) 市外の教員と話すと、活用している学校もあります。答えを求める道具ではなく、考えを深めるツールとして使っているようです。使い次第で子どもたちのためになるはずです。

(委員) 体力テストの結果についてはいかがでしょうか。

(学校) 小学校5年生と中学校2年生が5月に実施しました。大阪府独自で3、4年生も実施しています。結果をどのように授業へ生かすか検討しています。3校のデータを見ていますが、明確な共通点はまだ出ていません。体力テストだけでなくアンケートも実施しています。共通の課題として、男子は運動が好きで数値も高い傾向、女子は低く、運動が嫌いと感じる割合が高いことが挙げられます。特に中学校2年生で差が大きくなります。中学校進学後の女子の運動離れが課題であり、小学校段階で何ができるかを考え、体育の授業で「できた」という経験を増やしていきたいと考えています。

(委員) 日本では「女子はそこまで運動しなくてもよい」という考えが今も残っているように感じます。部活動でも男子の運動部の割合が高い。小中段階で運動の楽しさを伝えてほしいです。体づくりや人間形成にも大切です。

2. 評価指標について

(委員) 阿武山中学校の総合的な学習の時間の内容を今年度変更してよかったとのことですが、何を変えたのですか。

(学校) 1年生は福祉学習、2年生は職業体験、3年生は防災と、大きな柱は変えていません。内容を整理し、単発で終わらせず、意味のある学習に精選しました。以前は体験や講義で終わることもありましたが、そこから課題を投げかけ、子どもたちの疑問を基に探究し、自分たちで解決するところまで発展させています。今後の課題は、9年間を通した総合的な学習の時間の体系化です。地域と連携しながら、将来的には9年間を見通した学習にしていきたいと考えています。

(委員) 市民防災協議会で活動しています。防災講義を行い、子どもたちの感想から実践的に考えてくれていることが分かりました。防災は地域をつなぐキーワードです。北部地震の経験を踏まえ、地域のつながりや団結力を育てていきたいです。

(委員) 地域のお店で和菓子作りを学ぶ学習もありました。ただ、担当教員の異動で地域とのつながりが途絶えることもあります。それを防ぐため「地域のおやじ辞典」を作っています。地域とのつながりは、

店の存続にもつながります。大切にしてほしいです。

(委員) 宿題や道具を忘れずに持ってきているのが75%とのことですが、4人に1人が忘れ物をしているということになります。このままでよいのでしょうか。忘れても叱られず、翌日も同じことの繰り返しになっているのでは。家庭の責任もあると思います。

(学校) 子どもたちは真面目です。これまでの経験を思い出して回答している可能性もあります。毎日忘れていたわけではありません。

(委員) 質問の仕方によって数字は変わります。

(学校) 自己肯定感が低い傾向もあります。「間違っていたらどうしよう」と考え、否定的な回答をしがちです。真面目ゆえに完璧でないと「できていない」と答えてしまう面もあります。

(委員) 質問内容の工夫が必要ではないでしょうか。

(委員) 家庭環境によっては宿題が難しい場合もあります。担任だけでは解決できない課題もあります。

(学校) 授業を受ける権利を守るため、忘れ物があっても学習できるよう貸し出し用の準備をしています。

(委員) よいことはよい、悪いことは悪いと伝えることも大切です。

(委員) 忘れ物が周囲に影響していることも伝えてほしいです。

(委員) コミュニティスクールの認知度が低いようです。地域が支えていることを子どもたちにも伝えてほしいです。

(学校) 今年度から始まった取り組みです。結果を踏まえ、地域の支えを子どもたちに伝えていきたいです。

(委員) 将来について考える項目が向上していますが、理由は何でしょうか。

(学校) 特別な取り組みはありませんが、6年間のキャリア教育の積み重ねや、図工・国語などで将来を考える機会を工夫してきた成果と考えます。

(委員) 伸びている部分をさらに伸ばしてほしいです。

(委員) 消防団の活動に触れ、将来入りたいと言う子どももいます。こうした体験が職業観を育てます。

・その他

(委員) このアンケートは、何段階評価だったのか。

(学校) アンケートは4段階評価で実施しました。

(委員) 学校別・学年別に分析すると、より傾向が見えるのではないのでしょうか。

(委員) 子どもたちからインタビュー後にお礼の手紙をもらい、うれしかったことがあります。ただ、文字の丁寧さには差がありました。手書きの授業を増やせないでしょうか。

(委員) PC やスマホ普及の影響もあり、大人でも漢字を書けない人がいま

<p>4. 閉会</p>	<p>す。子どものうちは伸びる時期なので、漢字を使い、人に読んでもらう文章を書く経験が必要です。</p> <p>(委員) 筆圧が弱い子もいます。何か影響はあるのでしょうか。</p> <p>(学校) 個人差があります。入力が増えていますが、言語化する力は大切です。入力に頼ることで漢字を忘れることもあります。</p> <p>(委員) 高学年になると作文の宿題が減るのはなぜでしょうか。</p> <p>(学校) 低学年では日記など、自分の言葉を文字にすることから始めます。3年生以降は意見文や要約など、授業内で書く機会が増え、家庭に持ち帰る機会は減っています。</p> <p>(委員) 正解がないと書けない子も多いです。何を書いてもよいという指導が必要です。</p> <p>(委員) 家庭との連携も必要です。字の丁寧さも含め、学校教育で何を担うのか整理が必要です。</p> <p>(委員) 成功の反対は失敗ではなく、何もしないこと。失敗は挑戦の証です。教育は挑戦と失敗を経験し、次につなげる場であってほしい。学習指導要領も改訂されますが、先生方は懸命に取り組んでいます。今後ともよろしくお願いします。</p> <p>次回の予定の連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校長閉会のあいさつ ・ 次年度の開催時刻の変更について
--------------	---